

バックルファット除去術とは

バックルファット除去術とは、口の内側を切開し、頬の深い場所にある脂肪のかたまり（バックルファット）を取り除く手術です。バックルファットを除去することにより下膨れ顔が改善しすっきりと小顔になる他、たるみを予防し老化対策になる効果が期待できます。

バックルファット除去術後の状態・ケアについて

・当日は体が温まり血流が良くなると出血する可能性があります。念のため入浴はできる限り避け、ぬるま湯で短時間の軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。

・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。

・歯磨きの際、傷口に歯ブラシが当たらないよう優しく磨いてください。

・傷口への刺激や腫れが長引く原因になりますので、刺激物の飲食は術後2～3日ほどお控えください。

・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。

・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。

・顔のマッサージは、術後1ヶ月ほどお控えください。1ヶ月経過後も、手術部位周辺の違和感が継続する場合があります。術後半年程度は手術部位の様子を見ながら、無理のない範囲で行うようにしてください。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

バックルファット除去術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

口内の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の口元の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖、表情など様々な原因で、完全な左右対称には仕上がらない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1週間ほどで腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【感覚低下】

切除した部位の感覚低下がみられる場合があります。時間とともに改善していきます。

【しびれ、麻痺】

手術により非常に細かく小さい神経を切ることがあり、術後に痺れや麻痺などの違和感が残る可能性があります。多くの場合は3～4ヶ月で回復します。

【予定形態との差】

術後、予測した部位ではない箇所凹みが見れたり、頬がこけたりなど、仕上がりが完璧に想定していた通りにならない可能性があります。一度切除したバックルファットを元に戻すことはできません。微妙な左右差や希望のデザインとの差異が生じるなど、完全な理想通りの仕上がりが実現できない場合があります

バックルファット除去術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、手術部位周辺に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。